

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの運営理念をユニットの各所に掲示し職員だけではなく入居者・入居者家族にも理解してもらえるように実践している	運営理念である「真心・安心・敬う心」を事業所内の各所の目につく所に掲示しており、職員は常に確認・意識しケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議では民生委員・主任児童委員に参加を要請し、地域で開催される祭りにも積極的に参加している	近隣にある小学校で毎年11月に開催される「ふれあい広場」の祭りに店の出店をし、利用者の参加もあり、児童や地域の方との触れ合いの機会を設けている。また事業所にボランティアの慰問などがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	24時間365日スタッフが居る状況と地元小学校の通学路という地域環境を考えて、子ども110番(安全ハウス)の登録を継続している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間行事の報告や事業所の取り組み研修の内容など報告・説明を行ないサービスの向上につなげる事ができるようにしている	2ヵ月毎の運営推進会議には、民生委員や市担当職員、地域包括センター職員の参加を得て、事業所の運営状況や取り組み等、利用者の生活の様子が分かるように写真で紹介している。	運営推進会議に家族や地域の関係者の出席がみえない状況であり、貴重な意見の取り込みとして出席できる様、今後の工夫に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政と地域密着型サービス事業所で行っているサービス連携会議や運営推進会議等で交流を図っている	運営推進会議には、市担当職員や地域包括支援センター職員の出席を得ており、空き状況等、事業所の実情についての共有もされている。行政が事務局を務める地域密着型サービス運営連絡協議会議等の活動を通して、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行なわないように研修を取り入れている。玄関の施錠は行わない	運営推進会議でも職員研修内容や身体拘束事例を基に意見交換がされている。身体拘束の理解や認識を深めていけるよう職員研修の機会を確保しており、一人ひとりが意識して、玄関施錠を含めて身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外での研修を通じて今後も防止に努める		